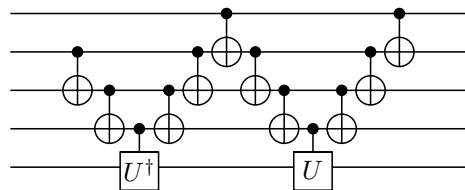


# TSG

Theoretical Science Group

理論科学グループ



部報 302号  
— 2013年追いコン号 —

目 次

追い出される方の言葉	1
無事追い出されるにあたって . . . . . 【5以下】	1

## 追い出される方の言葉

### 無事追い出されるにあたって

5 以下

こんばんは。2006 年入学の 5 以下です。違いましたカービィです。  
以下上司と飲みに行った時の会話。

「君と似た名前（高〇）の人がいて間違えやすいんだよねー…なんかあだ名とかないの？」  
「そうですねー（5 以下って言うと身バレするかもしれないしなあ…）…………カービィとか」  
「カービィ？（よく知らない）…………いいね！それ採用！じゃこれからカービィで」

ということでカービィです。会社で呼ばれまくってます。ワロスです。入社したら席にぬいぐるみを置いてやろうかと思っています。

つかみは置いておいて、改めて 5 以下です。<sup>1</sup>ごーいかと読みます。07 年度に副部長と編集長をやりました。カービィの動画を作る仕事をしていました。おかげで駒場祭にゲームを 1 回も展示できなかったのが心残り。<sup>2</sup>サークルでゲーム作ってノウハウを活かしてゲーム会社に入るぞーと思っていた頃が懐かしい。別に他に得られるものはたくさんあったので特に後悔はしていないのですけれども。ちゃんと目的を完遂できる人がうらやましいです。

とりあえず最後なので、特にこれから駒場祭で何かしら展示するだろう駒場生に向けて（展示したことのない人間がえらそうに）ゲームの話でもします。ゲームを作る上で考えるべき要素の 1 つとして「ターゲットを誰にするか」という問題があります。基本的にはターゲットが広いほうがヒットしやすいです。脳トレしかりどうぶつの森しかりソーシャルゲームに関してもターゲットが広い、誰でも遊べるのがヒットの一因となっています。もちろん一方で格ゲーや一部 RPG などターゲットを狭くする、難しさをアピールしてヒットしている作品も多数存在しますが、ここではターゲットを広くする方法と意味について述べたいと思います。

唐突ですがカービィシリーズは全年齢対象のゲームです。「何当たり前のこと言ってるんだ」とお思いかもしれませんが、これは結構重要なことです。低年齢向けでもなく、ライトゲーマー向けでもなく、全年齢対象なのです。確かにカービィを大人になってやっている人ははっきり言ってあまり多くありません。「子供向けで簡単そうなゲーム」と思われがちです。しかしカービィにはコピー能力という非常に大きな要素があります。普通のゲームでは難易度を変える方

<sup>1</sup>ちなみにこの HN はカービィは関係ありません。

<sup>2</sup>社会人枠とかあるんですかね

法はそこまで多くなく、そして能動的に用意されていません。しかしカービィにはそれが自然に、そして豊富に用意されているのです。それがコピー能力です。「トルネイドで飛んでいったら楽勝だった」「バーニングでボス倒すの無理ゲー」と自分で難易度を変えながら進んでいくことができるわけです。マリオと違うのは能力を手に入れるのはパワーアップとは限らないということです。そうして自分で簡単にも難しくもできるのがカービィシリーズの魅力なのです。

駒場祭にはたくさんのお客さんが来場されます。TSGは場所がいいこともあり、子供を含めかなり多くの一般人がゲームに触れることになります。内輪でゲームを作るとどうしてもコアな、難易度が異常なゲームが多くなってしまいがちです。もちろんそれもそれでおもしろいのですが、やっぱり何割かは分かりやすい、誰でも楽しめるゲームがあった方が皆喜びます。盛り上がります。そしてより楽しませる方法としてコピー能力のように能動的に難易度を変えられるようなものがあればいいよね、という話です。これからゲームを作る方はその事をちょっとだけ念頭においてくれたら幸いです。言いたいことはそれぐらいです。基本みんな優秀なので。優秀。とりあえずみんなカービィ<sup>3</sup>やりましょう。やれ。

---

<sup>3</sup>ウルトラスーパーデラックス, Wii, 20周年などがオススメ

## 編集後記

kobae964 まず初めに、追い出しコンパ号の作成および配布が遅れたことをお詫び申し上げます。9割以上は編集の怠慢が原因です。(残り1割以下は編集が病を得たことによりますが、おそらく3%以下です)

kobae964 そして記事が一つ(5以下さんのもののみ)でした。おそらく募集を掛けるのが遅かったのでしょう。次からはもう少し早めに募集をします。そして自分でも記事を書きます。

kobae964 最後に、5以下さんお疲れ様でした。

---

### 理論科学グループ 部報 第302号

2013年3月30日 発行

発行者 村瀬唯斗

編集者 小林弘季

発行所 理論科学グループ

〒153-0041 東京都目黒区駒場 3-8-1

東京大学教養学部内学生会館 313B

Telephone: 03-5454-4343

---

©Theoretical Science Group, University of Tokyo, 2013.

All rights reserved.

Printed in Japan.

理論科学グループ部報 第 302 号  
— 2013 年追いコン号 —  
2013 年 3 月 30 日

*THEORETICAL SCIENCE GROUP*